

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171300116
法人名	株式会社 マジェスティック
事業所名	グループホーム 芦刈紀水苑
訪問調査日	平成20年3月19日
評価確定日	平成20年5月26日
評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171300116
法人名	株式会社 マジエスティック
事業所名	グループホーム 芦刈紀水苑
所在地	佐賀県小城市芦刈町永田字六丁揃3220-2 (電話) 0952(66)6345

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日	平成20年5月26日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺き平屋建て造り 1階建ての1階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	カタフチ医院、池上内科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の一角に立地し、地域にとけ込んだたたずまいで玄関には手ごろな看板も掲げられている。出入口までの導入路にも鉢植えの花が小綺麗に飾られている。入居者とスタッフも和やかな雰囲気が醸しだされている。入居者の心身の機能回復、及び予防に取り組んでおり、廊下の隅には平行棒が用意されていて、又、リビングには両腕を衰えさせない為の滑車が据えられている。定期に来られる理学療法士の指導でこれらのプログラムが用意されている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価調査時までには話し合い参考にできる事、又、その後気が付いた事等を月一回のスタッフ会議で話し合っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	毎日の申し送り時、幹部会議等で運営・入居者の処遇について其々の考え、意見を出し合い、入居者・家族の意見等も参考にしながらスタッフ会議で総合的に自己評価している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議参加者は包括支援センター職員、地区長、家族、スタッフ等であるが、市担当者にも参画いただくよう声かけをしている。話し合われる内容は入居者の近況や行事計画、結果報告が主ではあるが、時には「火災」が議題になり、「火災訓練」を皆さんに協力いただいて実施する事もある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「運営推進会議」には家族の方の参加もある。出来るだけ参加も固定しない様に皆さんに声かけをしている。入居者への面会も頻度の差はあるものの、全入居者の家族がいらしている。その折、時間を取って頂いて、近しくお話し家族の方の意見、不満等を聞き出すようにして、申し送り時、スタッフ会議等で対応している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	「運営推進会議」、「火災訓練」等で地域の方々の協力を頂いている。創立されて5年、近隣に在住するスタッフを通して、又、努力の甲斐もあって最近では入居者やスタッフとも笑顔で気持ち良く挨拶、声かけが出来る様になっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創設以来の「ゆっくと、すこやかに、お互いを尊重し合う」の基本理念に地域密着を意識した、「地域との交わりの中で」を加えた理念を掲げている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	創設以来、理念は家族の方に墨書きして頂き玄関出入り口付近とリビング壁面に大書きしている。ホーム見学、家族の面会時等にも直ぐ目がつく位置に掲げてある。スタッフもいろいろな場面で「理念」を見出し、思い起こせる様に共有している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「火災訓練」にも地域の協力を得、地域のお祭り行事の時もホーム内のリビングで神輿を見せて頂いたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々スタッフ全員が意識を持ち、申し送り時やスタッフ会議の際に話し合っ業務評価をし、「外部評価」の後、参考になった点、気づき等をスタッフ間で話し合っている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議参加者は地域包括センター、地区代表者、家族、ホーム代表者や管理者である。行事の計画・結果報告等が中心ではあるが、「火災訓練」を実施する時には協力の依頼も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とも用がある時は出向いて会話することも。サービスの質についても指導を受ける事もある。	○	事業を行っていく上で生じる運営やサービスの課題について市町担当者とともに課題解決を図っていく為の積極的な関係づくりへの取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に一度の報告をしている。「便り」には行事の写真や日常のスナップ写真等を掲載し、近況報告や一口コメントを載せて入居者の各担当者が発送するようにしている。又、面会時にもゆっくりお知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「運営推進会議」には家族の方の参加もあり、また、機会ある毎に参加の呼びかけもおこなっている。参加して下さる方は限られているが、玄関出入口には「意見箱」も設置し、面会にいらした時にはそれとなく意見、不満等を伺う様にスタッフ一同心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの止むを得ない異動があった場合は、入居者の不安や動揺によるダメージが最小限になるように引継ぎを丁寧にするなど、スタッフ一同心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度のスタッフ会議、あるいは勉強会でサービスの質の向上を図ると共に、スタッフの育成に心がけている。外部研修にも積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はグループ事業所の交流が主である。定期的にスタッフ一同が集合し切磋琢磨しながらサービスの質の向上に励んでいる。「相互訪問」での体験研修も実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の新入居には特に配慮している。ほぼ7～8割の方が病院からの入居であり、申込の段階で管理者、ケアマネジャーが病院を訪問し本人、家族、主治医に面談し、本人の体調を見ながら家族共々来所して頂き、食事等をいただきながら入居者、スタッフと懇談の持ち場の雰囲気に徐々に馴れて頂けるように工夫をしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入浴の介助をしている時、おやつや食事の時お互いの顔を、目を見合わせながら一緒に学びあい、支えあっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントにより本人、家族の意向、希望等を把握している。その事が困難な場合は、本人との面談で得られた情報を元にして家族と相談し、スタッフ間で本人本位になるように検討を重ねている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に管理者、ケアマネジャー、看護師、本人、家族と面談し、希望、意向を把握してケアプランを作成し、スタッフ会議を経て当初プランの見直しを行っている。その時もサービス担当者会議で本人、家族、関係者と十分に話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは3ヶ月に1度の割合で実施している。しかし、状態の変化が生じ、対応出来なくなった時にはかかりつけの主治医、家族に相談し、サービス担当者会議を経て現状に即した新たなプランを作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週に一度、協力病院のリハビリテーション科より理学療法士の訪問があり、平行棒、吊り輪等の器具も用意し、入居者の機能回復・予防等に役立てている。又、看護師もスタッフとして勤務し、家族等の要望にも応えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により従来のかかりつけ医への受診を支援している。又、協力医の往診も月2回計画されており、本人、家族の希望により受けられる入居者もいる。往診を受けられた時はその都度家族に状態を伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化」や「終末期」に向けた取り組みは早い段階からなされている。入居時に「重要事項」を説明する時に「ターミナルケア(看取り介護)の指針」や「情報提供に関する同意書」等を作成し、主治医との連携の上全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所の「運営規程」等においても、「プライバシーの保護、個人情報の保護」が規定されている。スタッフ会議や勉強会の場でも十分に研修している。日常の言葉かけや対応についても入居者の誇りを傷つけない様に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内はゆっくりした時間で時が流れている。衛生面や事故等がない様に配慮しつつ、本人の希望により散歩をしたり、ゲームをしたり自由な暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の特技を生かし、食事前の準備から後片付けまで一緒にしている。食事も二つのテーブルに分かれて、それぞれのテーブルにスタッフが同席し、同じ料理を食べながら時間を過ごしている。入居者の嗜好も会話の中で把握し次回に生かすようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週三回を目標に、本人の希望にあわせて実施している。タイミングの上で入浴が難しい時は清拭や足浴で対応し、楽しめるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時のアセスメントによって本人、家族の希望を把握し、職歴、生活歴等を知ることにより、日々の生活の中でその役割を見出し充実した一日を過ごして頂けるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気が良く、暖かい日には皆連れ立って近所を散歩したり、各入居者の希望に応じ支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に玄関、居室に鍵を掛ける事は無く、管理者、スタッフもその弊害を理解している。玄関扉には大きめな「鈴」を付け、スタッフは開閉の度に鳴る心地よい鈴の音色で人の出入りを把握している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の「消火訓練」、「避難訓練」を実施している。消防署立会いや夜間想定訓練の実施もある。地域の方の協力を得て空き地に避難させるなどの訓練が取り入れられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者のその時々状態に応じて量等を加減し、きざみや粥等の対応もしている。栄養バランスもグループの栄養士に頼んで定期的に検討している。水分量も起床時から就寝までの目安を持って支援している。献立は入居者と話し合いながら作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は落ち着いている。居室の前には近所の方の手作り表札がかかり、壁面には行事の写真や季節感ある装飾が施され、リビングでは台所の音がかえって生活を感じさせて郷愁がそそられる。カーテン越しの光も柔らかいである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は備付のベッド、ダンス、洗面台があり、その他個人で持ち込まれた衣装ダンスや家族の写真立て、手芸品等が見受けられ本人、家族の思い、好みが出されていて居心地良く過ごせるように工夫がされている。		